

年間第6 主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読

マタイ5:13-16 イエスが来たのは律法や預言者を廃止するのではなく、完成するためである。これらの最も小さな掟を一つでも守り、そうするように教える者は、天の国で大きい者と呼ばれる。聞いているとおりに、昔の人は「殺すな」、「姦淫するな」、「偽りの知解を立てるな。主に大して誓ったことは必ずはたせ」と命じられている。しかし、イエスは、人の義が律法学者やファリサイ派の人々の義に勝っていなければ、決して天国に入ることができないといっておきます。

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号；YOUCAT #335-337）

#577-581、1967-1968、2064-2073、2261、2466、2608

イエスは山上の説教の初めに、第一の契約の際シナイ山上で神から授けられた律法を新しい契約の恵によって照らして示しました。イエスは天国でもっとも偉大な方として、律法を極めて些細な掟に至るまで完全に果たさなければなりません。しかも、イエスはそれを完全に果たすことのできた唯一の方です。ユダヤ人は、自ら告白しているように、些細な掟を含めて律法を完全に守ることができませんでした。そのために、例年の贖罪の日に律法違反の赦しを神に願います。文字として書かれていることがただけではなく、精神においても律法を完全に遵守し、偽善者にならないように、すべての罪人に代わってただ一人の正しい人が律法を完全に守らなければならない。この人は最初の契約のもとで犯された罪の贖いとして死んでくださったキリストである。（ヘブライ9：15）彼は、旧約の律法を完全し、磨き上げ、超越し、完全なものにします。律法学者であるラビとしてキリストは、律法のラビ流の解釈の枠内での論争もしておられます。シナイ山上で響き渡ったその同じ神のことばが、キリストにおいて、今一度至福の山で唯一神の権威をもって、語られるのです。「あなた方も聞いているとおりに、昔の人は……と命じられている。しかし、私はいっておく」（マタイ5：33-34）。「殺すな」という掟は命を保護し、いさらに怒りや憎しみ、復讐なども禁じて、敵を愛することさえも弟子達に求めます。世の光であり、真理としてのイエスに従うように、しかり、しかり、否、否といいなさいを守ります。祭壇に供え物を捧げる前に兄弟と和解すること、敵を愛し迫害者のために祈る時には、心から人を赦し、心を清くし、神の国を求めることなどの回心について力説されます。だから、山上の説教は、福音の法として、神的、人間的真理の全体を明らかにし、人間の心を徹底的に改めさせようとし、信仰と希望と愛が、これらとともに他の諸徳が育まれるのもこの心においてなのです。聖書に忠実でイエスの模範を遵奉する教会の聖伝は、使徒後継者としての司教と教会教導権によって、神と隣人への愛としての十戒を解釈し、信徒たちに倫理的良心、社会的生活において示します。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#114、420 イエスと旧約の十戒：

- 430、438 – イエスは旧約の律法を廃止されたのではなく、その最終的な解釈によって、これを完成されました。
- イエスが実現された新しい法は、福音の法であり、神と隣人を愛し、キリストが私たちが愛してくださったように互いに愛し合うという愛の掟に要約されます。
- 教会の教導権は十戒が根本的な意義であると認め、キリスト者には十戒を守ることや、信者が信じて生活の中で実践すべき信仰を述べ伝える義務を果たします。

結語／祈り： 命の道を示して下さる神よ、貴方は旧約の民にお与えになった律法を御子キリストの生涯によって完成されました。教会に集う私たちは、教会の教導権による知恵をいただき、神への愛、隣人への愛を生活の中で実践することが出来ますように。